



ぶらり神戸第15号

令和2年11月

## 「江戸時代上皇の領地、内田家」

本号も前号（淡河本陣跡）に引き続き、江戸時代に関するぶらりです。

江戸時代というと、武家の世というイメージがありますが、天皇も上皇も存在しています。その上皇の領地として与えられた仙頭御料が神戸市北区に存在しました。内田家は、小部村の庄屋を代々務め、周辺の御料所7か村を束ねていました。



その関連する歴史文化遺産が西小部

村の庄屋宅であった内田家住宅です。兵庫県指定重要有形文化財にも指定され、小部千年家とも呼ばれています。神戸市北区の千年家と呼ばれるのは、第5号で紹介した衝原の箱木千年家、上谷上の坂田千年家、そして小部の内田家住宅です。千年家と呼ばれていますが、江戸中期の18世紀中頃またはそれ以前の様式であることが確認されています。

この住宅は、畳間・板間が田の字形に4部屋配置される整形四間取で、庄屋の居宅としての公的な場として使われた南側のカミノマ・シモノマ、家族の生活の場となった北側のダイドコロ・ナンドで構成されています。古風な点は、小屋組が、18世紀頃までに建った周辺古民家に多く



見られるオダチトリイ組、ナンドが閉鎖的に作られていること、工具痕に

ちょうな手斧はつりがあることです。

建物の中に入ると、不思議と江戸時代にタイムスリップしたような感覚になります。神戸特別支援学校から車で10分の所にある貴重な歴史的文化遗产です。